

# 大棧橋をつくる。

## ■ 人・もの・情報・文化を集積・交流・発信する場

かつて、岩瀬や高岡といった寄港地のあった北前船が、ものだけでなく、人や文化、情報の交流を促していたように、集まる、交流する、発信する場所とする提案です。

歴史的に価値のある県庁本館を活用しつつ、北側は、駅方面へとつなぐ大きな棧橋のような、長さ124m、幅16mの建物を配置し、その周りには、緑豊かな公園の中に、移り変わる用途や増減を可能にする、ランドスケープと一体となるような、低層の建物、“さんかくキャビン”を配置するアイデアです。

県庁本館の南側は、北側とつながりつつ、松川や城址の方面へ開くゲートをつくり、景色を眺めながらリラックスのできるテラスを設ける提案です。



## ■ さんかくキャビン



高さ4mの三角屋根のキャビンがランドスケープと一体となり、流れや波のような景色をつくりだし、屋内・屋外とつながる様々な活用方法を生み出します。

## ■ ゲートテラス

南側の松川、城址公園を望む、2層のテラス。県庁本館や大棧橋とつながりつつ、景色を楽しめる、ゆったりとくつろげるテラスの提案です。



## ■ 大棧橋



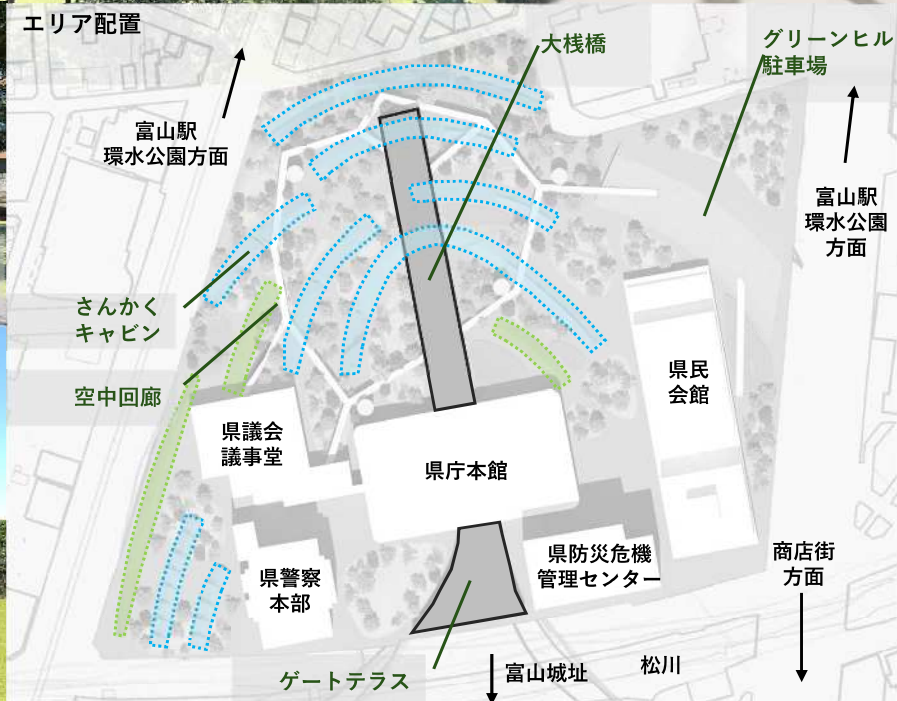
県庁本館を活かしながら、棧橋のように人、ものが集まる場所です。緑や自然光を楽しめる、開かれた、新旧の融合したシンボリックな建物の提案です。

## ■ グリーンヒル+駐車場

県民会館のすぐ隣、このエリアの北東のエントランスゾーンに、屋上・壁面緑化でカバーされた駐車場にし、利便性と快適性をもたらします。現在の県民会館の青空駐車場は、県民会館の前庭スペースとなり、憩いとウォカビリティの向上をもたらします。



# 県庁周辺エリアアイデアコンペ



# コンパクトシティのドライバーとなる。

## ■ コンパクトシティの推進力となる場

富山市の中心部に位置するこの地に、市の推進するコンパクトシティのドライバーとなる拠点づくりの提案です。生活・文化・アート、イノベーション・スタートアップ、産業のショーケースやイノベーションの拠点とするアイデアです。また、オープンスペースを重視し、公園となることで楽しく歩き回ることができ、北側の富山駅や南側の商店街をつなぐ、ウォーカブルなまちの拠点となります。

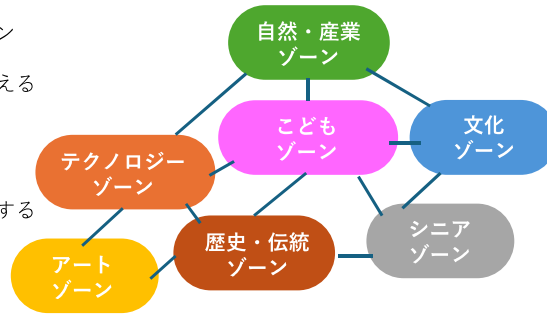
下図のような7つのゾーンを設け、低層の"さんかくキャビン"と周囲のランドスケープ（庭）を活用しながら、オープンに集まり、交流し、創造・発信を行える場・しくみをつくる提案です。

- 例えば、
- ・ "自然・産業ゾーン"に、植物園+カフェ+ベンチャーラボをつくり、気軽に立ち寄ってリラックスしたり、県内の植物園とのネットワークにより、植物の情報にアクセスし学ぶことができる
  - ・ "テクノロジーゾーン"や"シニアゾーン"、"子どもゾーン"で、産官学連携のリビングラボを開き、ウェルビーイングの向上のための試みに立ち会える
  - ・ "アートゾーン"や"文化ゾーン"で、国内外より人が集まり、アーティストインレジデンスの試みにより、県民がアートに触れ、触発される
- など、ふらっと寄れる、情報にふれられる、産官民学のつながり・協働ができる、いろいろな世代・国籍の人とふれあえる、学びや研究、ビジネスやセッションのできる、「ここにすれば何かある、何かできる」場所となります。同時に、庭、散策路や空中回廊や、ランドスケープと一体化した"さんかくキャビン"で、リラックスできる、ウェルネスを意識した環境が提供できます。

## ■ エリア内のゾーン・ネットワーク

- “自然・産業”：富山の森、農業・水産業・林業・工業・商業に関するゾーン
- “文化ゾーン”：さまざまな文化に関するゾーン
- “子どもゾーン”：子どもが楽しめる、様々な試み、イベントを行えるゾーン
- “シニアゾーン”：高齢者の居心地の良い場所、様々な試み、イベントを行えるゾーン
- “歴史・伝統ゾーン”：富山の歴史・伝統を伝える、創造するゾーン
- “テクノロジーゾーン”：富山の企業、大学、民間のテクノロジーをコラボ、創出するゾーン
- “アートゾーン”：富山、国内外のアーティストが活動できるゾーン

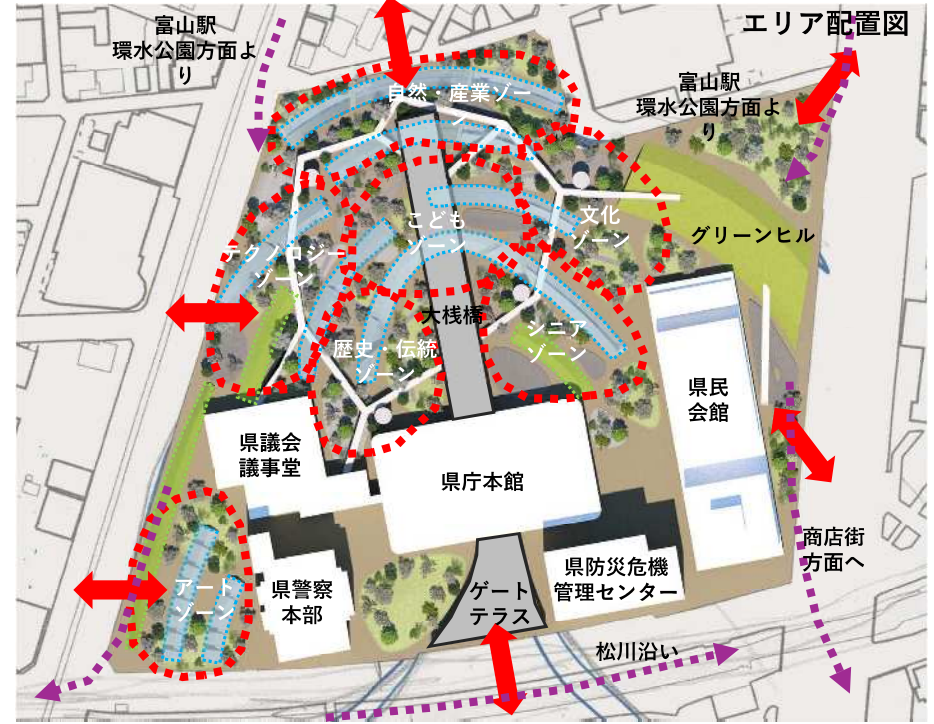
それぞれのゾーンがゆるやかに、柔軟につながり、ソフトプログラムにより、暮らしやすい、楽しめる、コンパクトシティの拠点に



## ■ ソフトプログラム

インキュベーション	このエリアの様々な分野のベンチャー・スタートアップのサポートと拠点づくり
ラボラトリー	リビングラボ、オフグリッドラボ、食ラボなど、生活や環境に関する分野でのユニークな試みの推進
デジタル情報ライブラリー	様々な情報にアクセスできる、VR商店街、VRミュージアム、VR森など、様々な体験体感ができる、拡張型ライブラリー
イン・レジデンス	アーティストインレジデンスをはじめ、様々な分野での滞在型創作と交流活動の推進
ショーケース	このエリアで生み出されたプロダクト、アートをはじめ、富山県の地域の発信

## 県庁周辺エリアアイデアコンペ



# 還る・変える・孵る。

### ■ いろいろなサーキュレーションと変化に対応できるエリア、そこから生まれる持続性のある循環型社会の拠点に

**1. 建物、ランドスケープのサーキュレーション**  
 様々な景色が楽しめ、歩き回ったり、リラックスできる居心地の良い場の提案です。

- ・ウォークابل・シティの拠点
- ・地上や空中回廊のネットワーク
- ・ランドスケープの庭や大栈橋、本館、ゲートテラスへ

**2. 建物のサイズと用途の変容性**

- ・増減築や移設、リユースが可能な構造・工法
- ・用途の変化にも対応できる

**大栈橋**

4mグリッドを基準としたの4層の木構造。開かれた県庁機能・サービス、インキュベーション施設、地上のランドスケープとつながるパブリック屋内空間、最上階のオープンな大きな空間。

**さんかくキャビン**

合掌造りの架構をモチーフにしたシンプルな木フレーム構造。ユニット化することにより、増減築、移設のできる可変性のある建物。

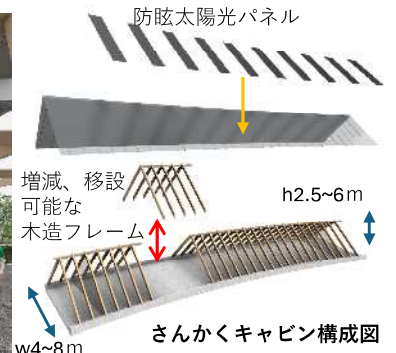
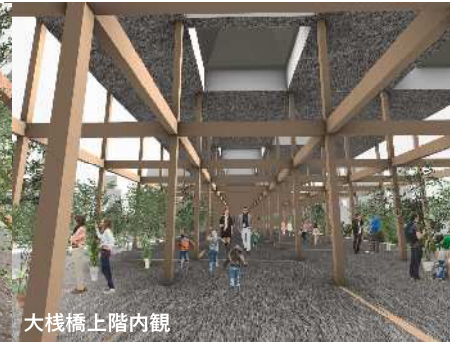
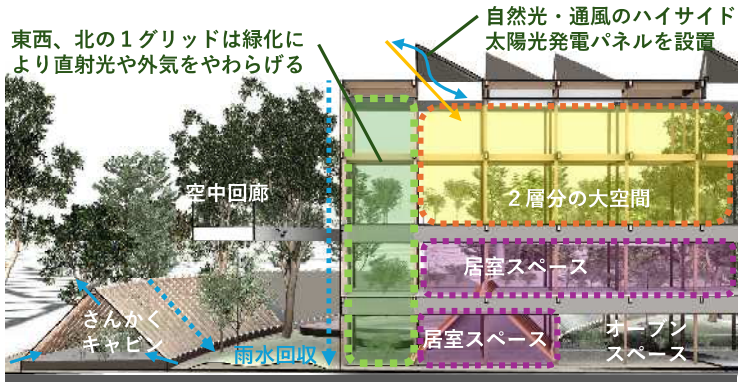
**3. エネルギー、資源、プロダクト、廃棄物のサーキュレーション**

地域、このエリアの循環型システムにより、環境にやさしい、持続性のある取り組みを、このエリアに取り入れる、ここから生み出す提案です。

- ・オフグリッドのエネルギー、上下水循環
- ・自然エネルギーの利用、再利用
- ・地域産材、リサイクルマテリアルを建設資材に
- ・屋上緑化、壁面緑化、屋内緑化、大きなランドスケープエリア

**4. 防災・避難・復興のサーキュレーション**

県庁、市役所機能などが集まるこのエリアは、防災の拠点となる場所です。防災の研究や学び、開発をソフトプログラムに組み込み、このエリア内でも取り組むと同時に、オープンな場所への避難、さんかくキャビンや大栈橋を、仮住まいとしての利用し、オフグリッドシステムを活用して、被災からの復興への拠点とするアイデアです。



1. 北東エントランス

6. 南西側鳥瞰

太陽光パネル

5. 樹幹や上からの景色を楽しめる空中回廊

4. 松川、城址を眺めるゲートテラス

2. 北側に開く、植物園タイプのさんかくキャビン

3. 庭、さんかくキャビン、空中回廊が重なる景色

防眩太陽光パネル